

X 本G Pプログラム終了後の方向について

本G Pプログラム（「産学融合型専門人材開発プログラム－長岡方式－」＝キャリアG P）の補助金終了後の方向については、2009年3月3日の現代G P推進本部、同月4日の本学教授会、同月11日の連携F D（教育開発）チーム会議および同月25日の本学集中F D研究会での検討を踏まえて、次の通り進めることとした。

1 予算・費用について

新入生合宿研修、能力診断（一般職業適性検査、フューチャーマップ診断テスト）、授業支援（学生S A）、キャリア授業講師（産学連携科目、起業家塾、就職関連）、大学・授業評価（満足度調査、授業評価アンケート）、学生自主活動支援（大学祭、リーダー研修）、情報発信（ホームページ、ブックレット・パネル、文化講演会、報告会）、事務スタッフ関係の事業は基本的に継続する。これに要する経費は大学本予算に繰り入れることとした（継続分予算は約1,200万円）。

2 「産学融合教育プログラム」の推進について

本プログラム＝「産学融合型専門人材開発プログラム－長岡方式－」の名称はやや長いので、より簡潔に、「産学融合教育プログラム」に名称変更を行い、これまでと同様、本学教育の特色とする。

産学融合教育プログラムは、これまでと同様、ビジネス展開能力開発プログラム、資格対応型専門教育プログラム、産学連携キャリア開発プログラム（従来の「産学連携実践型キャリア開発プログラム」の名称を簡略化）の3つのプログラムで構成し、一層の発展をめざす。

3 ビジネス展開能力開発プログラムについて

このプログラムは、次の2点を柱に、より充実・拡大を図り推進する。

- ・ゼミナール（4年間必修）において、自己発展チェックシートを用いて、学生の目標設定と自己発展を支援・指導する（マンツーマン指導）。
- ・1・2年ゼミは基礎学力の養成を行い、3・4年ゼミでは課題解決型プロジェクト等に取り組み、社会人基礎力を本格的に養成する。

なお、学生へのアドバイス・カード（フューチャーマップ診断、満足度調査結果等からゼミ学生へのアドバイス・ポイントを整理）と学生のキャリア形成基礎資料（成績、レポート、自己発展チェックシート、フューチャーマップ診断、職業適性診断等）の具体化は、F D推進委員会で検討する。

4 資格対応型専門教育プログラムについて

このプログラムの資格（検定）取得については、情報関連分野は大きな成果をあげているが、他の専門関連分野ではようやく始動したという段階にある。今後、資格・検定案内の作成・配布（各資格・検定のスケジュールと受検方法、学習計画・方法等）など推進体制の整備、充実をはかり、着実に成果をあげる必要がある（教務委員会、コース主任）。

5 産学連携キャリア開発プログラムについて

このプログラムの実践的な授業は学生に高く評価されており、ビジネスや社会経済の現場を理解し、かつ将来の職業人への動機付けに資するキャリア教育＝実践的就職力の一層の充実を図る。連携企業等の協力のもとに、経営者・実務家の講義、企業見学、企業実習などの産学連携のキャリア教育を行う。具体的には、キャリア形成科目＝就職関連科目を、学部共通科目とコース別科目に分けて配置する。年間で、概ね外部講師40人の招聘を目標にする。

学部共通科目として、就職基礎力形成科目（キャンパスライフ入門、長岡・新潟を知る、経済・経

営の現場を知る、ボランティア論、ボランティア体験、起業家塾、産業論、企業経営研究、キャリア開発、ゼミナールⅡ、ビジネスマナー、インターンシップ、時事問題)、就職スキル形成科目(就職講座、職業能力基礎)を設ける。

コース別科目として、各コースごとに、現場の理解を深める実践的教授法等による授業(企業講師授業や現場体験・課題解決等)を設ける。

キャリア形成科目については、毎年度見直し、充実させることとする(コース主任、教務委員会、就職委員会)。

6 連携企業との関係について

「産学融合教育プログラム」の継続・推進にあたり、連携企業との関係をさらに発展させる。平成21年4月から、従来の「長岡大学連携FD(教育開発)チーム会議」を「産学連携FD会議」に名称変更して発足させる。

この会議は、講師派遣、企業見学、課題提出および本学教育改善提案等を行う教育開発の連絡・協議組織とする。連携企業への依頼を新年度に改めて行う。

当面の作業として、地域活性化GP(平成19~21年度採択現代GP「学生による地域活性化提案プログラム」)参加ゼミ以外の平成21年度3・4年ゼミにおける課題解決型プロジェクトのテーマを設定する必要がある。長岡産業活性化協会NAZE、長岡市、長岡商工会議所、長岡地域振興局へのヒアリングにより企業・産業レベルの実課題リストを作成し、現連携企業へのアンケート調査により修正し、取り組み課題リストを作成する。

また、長岡大学側の産学連携FD会議メンバーは、学長を議長とし、コース主任およびFD推進委員とする。

なお、地域活性化GP対応ゼミ以外の3・4ゼミ課題は3月段階では、「機械系産業のSWOT分析」に3つのゼミが取り組むことが明らかになっている。

以上の産学連携FD会議関係はFD推進委員会が担当する。

7 現代GP推進本部について

現代GP推進本部は、キャリアGPと地域活性化GP双方のプロジェクトを推進してきたが、キャリアGPが終了するので、次のように再編成する。

*地域活性化GP推進本部を、本部長：原陽一郎学長、副本部長：鯉江康正教授、委員：参加ゼミ担当教員およびアドバイザー教員の陣容で構成する。

8 FD推進委員会の設立について

キャリアGPの終了にともない、現代GP室運営委員会(現代GP諸業務の推進・運営)と現代GP推進本部内のワーキング・グループ(FD、授業評価調査、学生満足度調査、キャリア教育等)を廃止し、これらを母体にして、「FD推進委員会」を新設する。

これは、この間の2つのGPプログラムにおいて、最大の課題は、教育内容・教育方法のイノベーションにあり、今後も同様であると考えられるためである。具体的業務としては、FD研究会の運営、産学連携FD会議の運営、授業評価アンケート、満足度調査、PBL等実践的教授法の検討、キャリア教育のあり方研究などである。教務委員会との業務の棲み分けは同委員会です手に余るFD関連業務を担う。

委員会は、委員長=学長とし、旧推進本部ワーキング・グループメンバー+旧現代GP室委員+教務委員+就職委員等で構成する。